

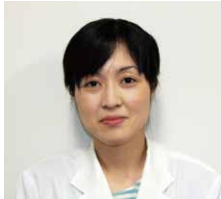
病院のお仕事いろいろ

その1 社会福祉の立場から、医療の現場を支える

メディカルソーシャルワーカー (MSW)

高橋 久美子
(たかはしくみこ)

突然大きな病気にかかり治療が必要になった場合、医療費などの問題、病状や後遺症、社会復帰への不安など、さまざまな問題や不安に直面することがあります。そのような経済的・心理的・社会的な問題を抱えた患者さんやご家族に対して、社会福祉の専門職として一緒に考え、解決のための支援を行うのがメディカルソーシャルワーカー (MSW) です。地域医療連携センターでは、MSWが6名体制で病気などの不安、福祉制度・医療費の相談、病院紹介、さらには地域医療機関との連携など幅広い業務を行っています。相談件数は年々増加し、昨年度の医療福祉相談は延べ2万件を超えるようになりました。高橋MSWも日々多くの相談業務に携わっていますが、患者さんやご家族にとって病気や経済的な問題は話しづらいことが多く、初対面の患者さんには、その表情や仕草などを見逃さず、患者さんが抱えている問題をいかに引き出せるかを念頭に置きながらお話を伺っているそうです。また、患者さんの希望に添った病院を紹介するため、積極的に地域医療機関を訪問して施設の特徴を把握し、担当者とも顔の見える関係をつくるように心がけています。大学病院に所属するMSWは、患者さんと関わる期間が短く、その間にどれだけの支援をできるのか難しい面もありますが、患者さんが本院での治療を終えた後、紹介先の病院で治療やリハビリに専念し無事社会復帰できたなどの報告を受けると、この仕事をしていてよかったと感じるそうです。最後に、今後も専門知識を深め、患者さんが安心して治療に専念できるようサポートしていきたいと語ってくれました。



その2 患者さんや職員の安全・安心を目指して!

感染管理認定看護師

中曾 亜佐美 (なかそ あさみ)
副看護師長

病院には免疫の低い患者さんや、治療中のため体力が落ちていいる患者さんが多くいます。抵抗力や免疫力が弱った患者さんには、たとえ健康な方には無害な菌であっても、感染してしまうと重篤な病気を引き起こすこともあります。患者さんが安心して治療に専念するために、感染対策への取り組みがとても重要となっています。中曾副看護師長は院内感染を予防するため、耐性菌などの注意が必要な菌についてのモニタリングや監視、現場のスタッフに対する助言や指導、ICTチーム (医師や薬剤師、看護師など多職種が集まり、横断的に病院全体の感染対策活動を行うチーム) での活動など、感染管理認定看護師として、また安全管理対策室感染対策部門の副部門長として、さまざまな活動を行っています。本年4月、広島大学病院から本院に赴任した中曾副看護師長。感染対策は現場スタッフの情報提供や協力がとても重要になります。徳島での生活も初めての中曾副看護師長は、日々病棟に出向き、スタッフに顔や名前を覚えてもらえるよう努力しているそうです。感染対策を担当する立場として、時に現場のスタッフの仕事を増やすような改善提案を行うことがあります。教科書的な理想論ではなく、継続して取り組めるような改善プランを提供することを常に心がけているそうです。「直接患者さんの声を聞くことはあまりありませんが、患者さんと直接接している現場スタッフから頼りにされたり、現場で感染予防に対する取り組みが継続して行われていることを確認すると、やってよかったなと感じます」(中曾副看護師長)。

